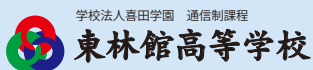


「教えて喜田先生!」子育てに悩む パパ&ママを応援!



学校法人喜田学園 通信制課程

東林館高等学校

- ◎3年で高校卒業を目指すコース
- ◎受験対応個別指導コース
- ◎中学生コース・社会人コース

目的に合わせた幅広い学びを
提供しています

福山市光南町1-1-35
TEL.084-923-4543
FAX.084-926-9607



●福山駅南口から徒歩で約10分

東林館 福山

検索

●基本的信頼感を育む

アメリカの心理学者・エリクソンは、乳幼児期に親から自分のありのままの存在を認めてもらい、愛情深く接してもらったことで、自分の人生に対して前向きに生きる力や希望の原動力が培われ、「自分が他者から大切にされ、必要とされ、愛されている」という「基本的信頼感」が育まれると提唱しています。

基本的信頼感は、子どもたちがその後の人生で困難に立ち向かい、試験を乗り越え、良好な人間関係を築くための自己肯定感や自尊感情の源になります。まさに、小さい時の性格や性質は大人になっても変わらないという意味の「三つ子の魂百まで」ということわざにつながる感します。

心理学者の中では乳児期を過ぎたら「基本的信頼感」はもう獲得できないのかということが議論になることがあります。しかし、子どもたちと数多く接した経験から、乳児期を過ぎても獲得できる可能性はあると私は考えています。



喜田 紘平

東林館高等学校 理事長
実践心理学カウンセラー

学び・自立支援を通して
子どもの未来を創ります

乳児期が一番獲得しやすい時期であることは言うまでもありませんが、その後に出会う人や起きた出来事、周りの大人たちが子どもにどう関わるかによって、「基本的信頼感」は乳幼児期を過ぎても獲得できると思います。周囲に受け入れられ、その場に所属してもいいという所属感を感じることで、この基本的信頼感は満たされるのです。

よく、ななめ上の目線から「自分に自信を持って」「自分を好きになれ」と子どもたちに言う大人を目にします。しかし、それができるのは「基本的信頼感」で十分に満たされていることが前提です。

●気付いた時がスタート

自分を肯定できないのは、充分な基本的信頼感が育っていないからという可能性があります。子ども自身が、周囲に受け入れられていると実感できる環境づくりが大切。親子関係も含めて、関係性を見直してみましよう。今からでは遅いということはありません。気付いた時がスタートなのです。